

Ⅲ 委員会活動

1 学内委員会

1) 委員会および委員一覧

委員会	委員 (◎:委員長、○副委員長)
カリキュラム委員会	◎中田 芳子 (学科主任)、吉田 礼子 (学長付・教授)、泉 義雄・鈴木 陽子・望月 好子 (教授)、丹澤 洋子・吉野 由美子 (准教授)、寺村 絵美 (事務室員)
実習委員会	◎鈴木 陽子 (教授)、新村 直子 (准教授)、阿部 ケエ子・飯室 淳子・大貫 美奈子・木村 節子・蔵本 文乃 (講師)、中村 李菜 (事務室員)
学生委員会	◎淵田 明子 (准教授)、千葉 美果・二葉 千鶴 (講師)、坂本 優子・樋口 貴子 (助教)、北室 和茂 (事務室係長)、芹沢 利尚 (事務室員)
現代文明論委員会	◎小川 景子 (准教授)、萱嶋 美子・二葉 千鶴 (講師)、岩屋 裕美・高本 征子・坂本 優子・樋口 貴子 (助教)
国際交流委員会	◎中田 芳子 (学科主任・教授・デンマーク看護研修団長)、小川 景子・淵田 明子 (准教授)、後藤 雪絵 (講師・デンマーク看護研修副団長)、寺村 絵美、芹沢 利尚 (事務室員) デンマークスタディーツアー (デンマーク研修団の研修) 担当者 ◎小川 景子 (准教授)、中田 芳子 (教授)、萱嶋 美子 (講師)、芹沢 利尚 (事務室員)
国家試験対策委員会	◎丹澤 洋子・小川 景子 (准教授)、木村 節子・蔵本 文乃 (講師) 2年生代表: 淵田 明子 (准教授)、芹沢 利尚 (事務室員)
ハラスメント防止人権委員会	人権委員: 非公開 相談委員: ◎望月 好子 (教授)、岩屋 裕美 (助教)、一野谷 陽一 (事務室長)、大島 美知子 (図書館員)
FD委員会	◎中田 芳子 (学科主任・教授)、久保 典子 (准教授)、萱嶋 美子・後藤 雪絵 (講師)
倫理委員会	◎吉田 礼子 (学長付・教授)、坂部 貢 (外部委員)、中田 芳子 (学科主任・教授)、鈴木 陽子 (図書館長・教授)、望月 好子 (総合看護研究施設所長・教授)
研究活動の不正防止対策委員会	◎灰田 宗孝 (学長・教授)、吉田 礼子 (学長付・教授)、中田 芳子 (学科主任・教授)、鈴木 陽子 (図書館長・教授)、望月 好子 (総合看護研究施設所長・教授)、新村 直子 (健康推進室長・准教授)、一野谷 陽一 (事務室長)
省エネルギー推進委員会	◎灰田 宗孝 (学長・教授)、吉田 礼子 (学長付・教授)、中田 芳子 (学科主任・教授)、鈴木 陽子 (図書館長・教授)、望月 好子 (総合看護研究施設所長・教授)、新村 直子 (健康推進室長・准教授)、一野谷 陽一 (事務室長)
大学評価委員会	◎吉田 礼子 (学長付・教授) (ALO)、中田 芳子 (学科主任・教授)、望月 好子 (総合看護研究施設所長・教授)、丹澤 洋子・淵田 明子 (准教

	授)、一野谷 陽一 (事務室長)、北室 和茂 (事務室係長)、寺村 絵美 (事務室員)
	<u>教育研究年報編集委員会</u> ◎中田 芳子 (学科主任・教授)、望月 好子 (教授)、千葉 美果 (講師)、中村 李菜 (事務室員)
図書館運営委員会	◎鈴木 陽子 (教授)、吉野 由美子 (准教授)、木村 節子 (講師)、大島 美知子 (図書館員)

2) 各委員会活動

(1) カリキュラム委員会

A 位置づけ

カリキュラム委員会規程により以下について検討する。

1. カリキュラムの作成・運営に関する事項
2. カリキュラムの総合的な評価及び修正に関する事項
3. シラバスに関する事項
4. 授業時間割の基本的な編成に関する事項

B 活動目標

1. 授業アンケートの内容、回収、公表等について改善する。
2. 現状のカリキュラムマップについて検討し、改善の方向性を示す。
3. 看護技術到達度記録に関する事項を検討する。
(ガイダンス以降の指導、卒業時の集計・分析・評価等)
4. 今後のカリキュラム評価、改正の計画を立てる。
5. シラバス・授業時間割について、問題があれば検討する。

C 活動概要

1. 活動概要

① 授業アンケートについて

近年、授業アンケートの回収率が非常に悪くなっているが、授業アンケートをPDCAサイクルの視点からの位置づけ、教育目標の達成状況の評価できる内容等から見直すことを確認した。そして、授業アンケート検討グループを委員長と3名の委員で編成し、5回のグループ検討会を持ち、委員会に提案しながら検討を進めた。授業アンケートの目的、位置づけ、アンケートの設問内容について検討し、講義・演習用と実習用とは別に作成した。その後、公表方法、マニュアルについても検討し、2015年度前期は、試行期間として実施することになった。

② カリキュラムマップについて

2009年にカリキュラム委員会で検討した内容を基本にして、全体を見渡して各領域で再検討していくことで決定した。なお、本来ならば教育目標との関連で再検討していく必要があるが、今回は手直しとする。次年度以降、カリキュラムツリーの作成も視野に入れて検討していくことになる。

③ 看護技術到達度記録

2014年度より教務委員会が実習委員会となったので、看護技術到達度記録はカリキュラム委員会の管轄になった。4月のガイダンスでの説明は、カリキュラム委員長が行った。

12KF生の看護技術到達度記録の記載内容について、統合実習終了後に回収して、データ集計

は業者に依頼した。分析後、実習の打ち合わせ会で報告してく。

④ 今後のカリキュラム評価、改正の計画

大学評価委員会でのミッションシェアリングシート作成に伴い、次年度はカリキュラム改正の方向性を計画し、2016年と2017年にカリキュラムの評価をして、2018年度をめどに改正、2019年度より新カリキュラムとし、2020年に短期大学第三者評価を受ける予定。

⑤ 実習科目のシラバス

2015年度より、実習科目もシラバスに挿入することになり、記載した内容を各領域から持ち寄って、記載内容の基本的な統一について検討した。

⑥ テスト採点後の試験問題の処理

各科目責任者が試験終了後の問題を所持して各自廃棄していたが、全学で統一して処理する方法について検討した。

⑦ 自作教材のWeb公開の方法について

倫理委員会より、自作教材のWeb公開についての検討依頼があり、詳細を検討しフォーラムに掲載した。

⑧ 身体侵襲を伴う技術演習実施マニュアル

対象技術が減ったこと、内容が現状に合わなくなっているため検討し、マニュアルと提出書類を見直し修正した。

⑨ 看護技術演習マトリクス

各領域の現状を確認して、修正した。2015年4月に新しいものを全員に配布することになる。

⑩ 「カリキュラム全般と授業運営に関する意見」

2013年度までは、教務委員会が授業、演習、実習に対する意見を前期後期で集約していた。今年度より実習委員会となったため、「カリキュラム全般と授業運営に関する意見」という名称にし、カリキュラム委員会として前期と後期に教員から意見を聞き、関係部署と調整して、回答した。

2. 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月16日(水)	① 2014年度活動目標、活動計画 ② 2014年度の会議予定 ③ 授業アンケートについて
2	5月28日(水)	① 授業アンケートの問題点について ② 講義・演習に対する意見について ③ 2015年度の実習計画について
3	6月18日(水)	① カリキュラム全般についての意見の依頼について ② 授業アンケートの目的、位置づけ、対象等について ③ カリキュラムマップの検討の方向性 ④ テスト採点後の試験問題の処理について
4	7月15日(水)	① 授業アンケートの設問内容について ② カリキュラムマップについて ③ 看護技術演習マトリクスについて ④ 時間割の作成について
5	9月17日(水)	① 授業アンケートの設問内容について ② 授業アンケートの説明、配布、回収方法、公開について ③ テスト採点後の試験問題の処理について

		④ カリキュラムマップについて ⑤ 実習科目のシラバス作成について
6	10月22日(水)	① 授業アンケートの設問内容について ② 授業アンケートのマニュアルについて ③ 自作教材のWebに公開について ④ 実習科目のシラバス作成について ⑤ カリキュラムマップについて ⑥ 看護技術演習マトリクスについて ⑦ 2014年度前期カリキュラム全般と授業運営に関する意見の結果について
7	12月17日(水)	① 授業アンケートの公表について ② 授業アンケートのマニュアルについて ③ 身体侵襲を伴う技術演習実施マニュアルについて ④ 看護技術到達度記録のまとめ
8	1月21日(水)	① 授業アンケートのマニュアルについて ② 身体侵襲を伴う技術演習実施マニュアルについて ③ 2014年度後期カリキュラム全般と授業運営に関する意見の依頼について ④ 実習科目のシラバスについて
9	2月18日(水)	① 2014年度後期カリキュラム全般と授業運営に関する意見の結果について ② 授業アンケートのマニュアル、キャンパスナビへの掲載について ③ 看護技術演習マトリクス及び卒業時の到達度と実施科目の見直しについて ④ カリキュラム改正の方向性について ⑤ 看護技術到達度記録のまとめ
10	3月11日(水)	① 2014年度のまとめ

D 評価・改善

今年度は、授業アンケートの見直し、新規作成と回収や公表まで、1年間かけて詳細に検討した。2015年度は、試行期間を含めて新授業アンケートを実施し、集計分析、公開をFD委員会と協働して実施していくことになる。PDCAサイクルの位置づけの中で、学生の意見を反映させながら、教育内容の評価・改善に取り組んでいく。

看護技術到達度記録を回収して、集計したが記載ミスや未記載の学生が多かった。4月のガイダンスから、授業や演習、各領域実習において記載する頻回に学生に声をかけ、意識づける必要がある。また、今年度の結果をふまえて、回収方法や分析方法についてあらかじめ検討しておく必要がある。

2年間カリキュラム委員会が組織されていなかったため、今年度は検討課題が山積していた。次年度は、カリキュラムの全体を見通した委員会活動を目指して活動していく。

(2) 実習委員会

A 位置づけ

本委員会は学長の諮問機関であり、実習委員会規程に則って活動する。委員会決定事項は、実習

委員長から学科主任へ報告し、必要時企画調整会議に図り、教授会で審議・報告される。

B 活動目標

看護学実習に関する事項を審議し、看護学実習が円滑に運営されるよう調整的役割を果たす。

1. 実習計画検討小委員会 活動目標

- ① 看護学実習計画の検討及び関連機関との調整を行う。
- ② 学生が安全で効果的な学習となるよう、看護学実習に関する基本的事項の理解を促す。
- ③ 看護学実習に関する意見を収集するとともに、課題解決に向けて取り組む。

2. 安全教育検討小委員会 活動目標

- ① 実習におけるヒヤリ・ハットの状況を把握し、分析結果を教員・臨床指導者・学生と共有し事故防止に繋げる。
- ② 保管実習記録の取り扱いが円滑に行われるように支援する。

3. 実習関連課題検討小委員会 活動目標

- ① 看護学実が円滑に運営されるよう実習要綱の検討、必要に応じ修正ができる。

C 活動概要

1. 活動概要

本委員会は看護学実習に関する事項を審議する事を目的とし、今年度より組織された。前年度までの教務委員会からの引継ぎ事項を確認し、実習委員会年間活動計画に基づき活動した。また今年度は、「実習計画検討小委員会」、「安全教育検討小委員会」、「実習関連課題検討小委員会」の3つの小委員会を設けて取り組んだ。

① 実習計画検討小委員会の活動内容と評価

イ) 2015 年度以降の実習計画の立案

- ・2015 年度の実習計画は、2014 年7月に開催した東海大学医学部附属病院実習協議会で承認されたため、9月の教授会において報告した。
- ・2016 年度および2017 年度の実習計画（案）については、2015 年2月に開催した上記実習協議会に提出した。従来、次年度の実習計画の承認は、9月に開催される協議会においてなされてきた。しかし、東海大学医学部附属病院以外で実施している領域の実習については、9月の決定では実習施設との調整が遅くなってしまうという課題が生じている。そのため、2016 年度については、東海大学健康科学部看護学科の統合実習に関するカリキュラムが変更予定であるが、本学の実習計画には大きな影響はなく、2015 年2月に開催した上記協議会において暫定的ながらも実習計画は承認された。
- ・2017 年度以降の実習計画については、カリキュラム委員会との調整を含め検討を重ね立案していく。そして、2015 年度第1 回目の実習協議会（7月開催）において、東海大学健康科学部看護学科のカリキュラム変更や、東海大学医学部附属病院、東海大学医学部附属大磯病院、東海大学医学部附属八王子病院、東海大学医学部附属東京病院の4 実習の受け入れ状況から、計画内容の調整・検討を行う。

ロ) 2015 年度の3 年生実習グループ編成

2015 年度の3 年生実習グループ編成については、まず実習委員長が作成し、次に委員会で検討し、その後は2014 年度2 年生の指導教員の意見を参考にして、最終的に委員会で決定した。しかし、実習施設の受け入れ人数の関係で、実習グループ人数の調整が必要となり、一部の領域に実習施設との再調整を依頼することになった。次年度からはグループ人数の調整を早めに進めていく必要がある。

ハ) 実習用物品の再整備に向けた各領域の希望調査

前年度に、実習棟での実習用備品の不足の課題に対して東海大学医学部附属病院と東海

大学医学部附属大磯病院の実習病棟を対象に実習用品調査を行っている。その結果、ダブル聴診器や血圧計、水温計の不足と、新たに追加したい物品として SpO₂ モニター、ペンライト、瞳孔計、角度計が挙がっていた。また、基礎看護学より学生が演習や実習で使用する血圧計を、従来の水銀血圧計からアネロイド血圧計に変更したいという意見があった。それらのことより、今年度は各領域に対して必要な実習用品の種類と数の希望調査を実施した。そして、学科主任を通して次年度の予算計上に繋げた。2015 年度は、各領域に対して実施した希望調査を基に、実習用品の再整備を具体的に進めていく。

② 安全教育検討小委員会の活動内容と評価

イ) 「ヒヤリ・ハット報告」の集計・分析と検討

年 2 回 (前期、年間) 「ヒヤリ・ハット報告」の集計と年 1 回の分析を行った。ヒヤリ・ハット内容とその原因から学生の傾向や指導側の問題が見出され、委員会での検討を行うとともに、3 月の報告会で現状を共有し今後の対策について検討した。

ロ) 「ヒヤリ・ハット報告」の集計と分析結果の活用

- ・全学生に対して、看護学実習ガイダンス時にヒヤリ・ハットの現状、そこから考えられる学生の傾向と対策について説明することで、安全への意識づけを図った。
- ・臨床側に対しては、発生状況や対策について実習打合せ会や各実習において説明し、学生の学習を支える指導側として実習環境調整面に役立てられるように働きかけた。

ハ) 実習記録の保管・廃棄

- ・保管実習記録の閲覧はなかった。
- ・1 年生と 2 年生の実習記録は施錠できる所定の場所に保管され、3 年生 (2014 年度卒業生) の 3 年間の実習記録は完全溶解処理の依頼をした。

③ 実習関連課題検討小委員会の活動内容と評価

イ) 実習要項総説の見直しと修正について

- ・2015 年度より実習科目もシラバスが作成されることになり、従来の実習要綱から実習要項へと名称を変更することを決定した。
- ・「はじめに」について、実習要項総説の役割と活用方法が明確でなかったため修正した。また、「実習科目及び単位数」については、成績評価の基準を追記した。「実習に関する注意事項」については、記載されている注意事項を分類しタイトルをつけて整理し、SNS に関する注意事項について追記した。「地震発生時対応」についても追記した。その他、実習記録の処理等の一部内容を現状に合わせ修正・変更した。また、文字サイズ・段落・括弧の大きさ等の統一を行った。

ロ) 各実習科目の実習要項の見直しと修正について

従来、各実習科目の実習要項の記載内容や方法が統一されておらず、使用しにくいという課題があった。記載内容と方法を統一するため、テンプレートを作成し、各実習科目の実習要項作成に向けて提供した。

④ 実習関連の学生を対象としたガイダンスおよび実習打合せ会の企画・運営

イ) 看護学実習ガイダンスの企画・運営

4 月に 2 年生と 3 年生を対象とした看護学実習ガイダンスを実施し、3 年生に対しては各看護学実習の責任者と日程調整を図り領域別オリエンテーションを企画・運営した。また、7 月には 1 年生を対象とした看護学実習ガイダンスを実施した。

ロ) 実習打合せ会の企画・運営

今年度実習を開始するにあたり、実習病院 (東海大学医学部附属病院、東海大学医学部附属大磯病院) との実習打合せ会を企画し実施した。

⑤ 実習に関する意見の収集と対応

前期・後期授業終了後、各教員から実習に関する意見を収集し、委員会において検討した。一

部企画調整会議での審議を得て、問題点や意見と委員会での検討結果を一覧にし全教員に配付した。また、後期の意見については、実習委員会報告会で報告した。委員会において検討した内容を、関係部署に報告・依頼することで、現状の中でできる最大限の学習環境整備や課題の改善に繋げることができた。前期の「実習に関する意見」として挙がってきた項目は、図書館の座席数や実習用物品の課題であった。また、後期については、教員の HBV 検査やワクチン接種、実習中のヒヤリ・ハット報告の流れ、学生の感染症抗体検査の確認方法に関することであった。

⑥ 実習評価について

2014 年度に実施された全看護学実習の実習評価を、各看護学実習担当責任者に作成・提出を依頼し一覧表とした。各看護学実習において今年度の評価を活かし学生にとって効果的な実習となるよう、看護系教員に配付し関係諸施設や臨床実習指導者などと連携していくための資料として活用する。

⑦ 実習委員会報告会の開催

2015 年 3 月に全教員を対象とした実習委員会報告会を開催した。主な内容は①年間ヒヤリ・ハットの集計結果とその傾向と対策、②教員から出された実習に関する意見・問題点とそれらに対する検討結果、③2015 年度実習要項総説の変更点に関することであった。それぞれの報告に対し質問や意見交換を行うことができた。

2. 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4 月 9 日 (水)	① 2014 年度実習委員会活動目標・活動計画、役割の検討 ② 2014 年度実習打合せ会の最終確認 ③ 3 年生 (12KF)・2 年生 (13KF) に対する看護学実習に関するガイダンス実施評価
2	5 月 14 日 (水)	① 2014 年度実習委員会各小委員会の活動目標・活動計画の検討 ② 2014 年度実習打合せ会の実施評価
3	6 月 4 日 (水)	① 1 年生 (14KF) に対する看護学実習に関するガイダンスの内容・役割等の確認 2015 年度・2016 年度実習計画 (案) の検討 ② 実習計画検討小委員会からの報告および検討 a. 2015 年度実習計画 (案) b. 2016 年度実習計画 (案)
4	7 月 16 日 (水)	① 1 年生 (14KF) に対する看護学実習に関するガイダンス実施評価 ② 2015 年度実習計画 (案) の最終確認および 2016 年度実習計画 (案) の確認 ③ 2014 年度前期実習に関する意見の収集
5	9 月 10 日 (木)	① 2014 年度前期実習に関する意見の報告および検討 ② 実習施設における実習用物品再整備に向けた各看護学への希望調査の検討 ③ 安全教育検討小委員会からの報告および検討 a. 2014 年度前期、「ヒヤリ・ハット報告」集計の報告 b. 後期実習に向けた課題の検討 ④ 実習関連課題検討小委員会からの報告および検討 a. 2015 年度実習要項の内容とフォーム b. 2015 年度実習要項総説の内容確認の進め方

6	10月8日(水)	① 実習関連課題検討小委員会からの報告および検討 a. 2015年度実習要項総説の修正内容の検討 ② 実習施設における実習用物品の確認と再整備の検討
7	11月12日(水)	① 実習関連課題検討小委員会からの報告および検討 a. 2015年度実習要項総説の修正内容の検討 ② 実習施設における実習用物品再整備に向けた各看護学への希望調査の結果の報告と検討
8	12月10日(水)	① 2014年度後期実習に対する意見の収集 ② 実習関連課題検討小委員会からの報告および検討 a. 2015年度実習要項総説の修正内容の検討 ③ 安全教育検討小委員会からの報告および検討 a. 2014年度後期、「ヒヤリ・ハット報告」集計とまとめ
9	1月16日(金)	① 2014年度後期実習に関する意見の報告および検討 ② 実習関連課題検討小委員会からの報告および検討 a. 2015年度実習要項総説の修正内容の検討 ③ 2015年度3年生実習グループ編成(案)の検討 ④ 2015年度3年生・2年生に対する看護学実習に関するガイダンスの日程確認および内容検討 ⑤ 2015年度3年生領域別(科目別)実習オリエンテーション日程の確認 ⑥ 2014年度各科目の実習評価の実施と進め方の検討
10	2月4日(水)	① 2014年度後期実習に対する意見の報告および検討 ② 2015年度3年生・2年生に対する看護学実習に関するガイダンスの進め方と役割の検討 ③ 2015年度3年生実習グループ編成の検討 ④ 2015年度3年生に対する領域別(科目別)実習オリエンテーションの配布資料の検討 ⑤ 2015年度3年生に対する手術室オリエンテーションの日程と担当者の検討 ⑥ 2015年度実習打合せ会の配布資料の検討 ⑦ 2015年度1年生看護学実習に関するガイダンス日程の確認 ⑧ 安全教育検討小委員会からの報告および検討 a. 2014年度「ヒヤリ・ハット報告」の集計・分析結果報告と今後の対策 b. 「実習記録」の回収と廃棄に関する日程と方法 ⑨ 実習委員会報告会について
11	3月11日(水)	① 実習委員会報告会の実施評価 ② 小委員会年間活動評価と次年度に向けた課題の確認 ③ 実習委員会年間活動評価と次年度に向けた課題の確認 ④ 2014年度各科目の実習評価 ⑤ 2015年度実習打合せ会の確認 ⑥ 2015年度3年生・2年生に対する看護学実習に関するガイダンスの最終確認

D 評価・改善

今年度は毎月定期的に委員会を開催し、看護学実習に関連する事項を審議するとともに、計画された実習を効果的に進めることができるように適宜必要な事項の企画・運営を行うことができた。また、各実習はカリキュラム上の科目であるため、次年度も今年度同様にカリキュラム委員会との連携を十分に図りながら活動する。

(3) 学生委員会

A 位置づけ

本委員会は学生会活動を側面から支援し、学生一人ひとりが社会人として学生生活を有意義に送るために組織されている。学生と共に考え、一人一人の学生の主体性を尊重し、支援している。

B 活動目標

開学40周年を足掛かりとして、看護学生らしい企画を自立して行える。

1. 学生会活動への自主的参加者が増加する。
 - ① 様々な行事に参加することで、自主性や楽しむことを学ぶ。
 - ② 仲間とのつながりを作る。
2. 学生間・学年間の交流が図られる。
 - ① スポーツ大会を通してエネルギーの発散ができる。
 - ② 学生間の交流を深め、共に学ぶ仲間作りができる。
3. 飛鷗祭では学業と連動した企画立案できる。
 - ① 学園祭の本来の目的に立ち返ることができ、他学部の学生・保護者・近隣の方々に学びの披露ができる。
 - ② 企画運営を行う中から企画力・実行力・コミュニケーション能力の向上が図れる。

C 活動概要

1. 活動概要

学生会活動（学生総会、選挙管理委員会、飛鷗祭、学生交流会、学友会、東海大学短期大学（部）スポーツ大会、学内スポーツ大会など）を中心に学生の活動を支援した。

2014年度目標：『開学40周年を足掛かりとして、看護学生らしい企画を自立して行える』

- ① 学生会活動への自主的参加者が増加する。
 - イ) 様々な行事に参加することで、自主性や楽しむことを学ぶ。
 - ロ) 仲間とのつながりを作る。

については、

 - ・3年間という学生生活であり、3年目は実習となり、学生会の実質的な活動ができないため、毎年新執行委員長が戸惑うことが多かったため、今年度は様々な行事に執行部の参加する行事には1年生も参加できるように学生が自主的に行っていた。
 - ・執行部の役員だけに負担させるのではなく、皆が一丸となり仲間で助け合っていた。
 - ・看護学生らしい学びとなった。

以上のことから目標は達成できたと考える。今後もこのような体制が継続できるよう支援していく。
- ② 学生間・学年間の交流が図られる。
 - イ) スポーツ大会を通してエネルギーの発散ができる。
 - ロ) 学生間の交流を深め、共に学ぶ仲間作りができる。

については、

- ・学生会執行委員長を中心に幹部の連携がよく、本学だけのスポーツ大会も悪天候のため日程変更はあったが、多くの学生が参加した。また、様々な行事を通して学年を越えたつながりがもてた。
- ・勝つことだけが目標ではなく、楽しむことと全員参加と連携や連帯を大切に行っていた。
- ・有言実行できる学生たちであった。

以上のことから目標を上回る成果であったと考える。

③ 飛鷗祭では学業と連動した企画立案できる。

イ) 学園祭の本来の目的に立ち返ることができ、他学部の学生・保護者・近隣の方々に学びの披露ができる。

ロ) 企画運営を行う中から企画力・実行力・コミュニケーション能力の向上が図れる。

については、

- ・開学40周年を記念した企画ができるよう支援した。様々な提案を学生に行ったが、それを学生が鵜呑みにするのではなく、自分たちとして何ができるかをしっかり考えることができ、多くの新しい企画や変更ができ、充実した飛鷗祭となった。
- ・大きな企画として大学側とのコラボレーションしたシンポジウム、パンフレットの変更、学習の成果発表の場とした教室企画、モザイクアート、明瞭で正確な会計、全体の進捗状況がわかる表示、終了後の反省を文章にして残すなど、学生の自主性を生かした学園祭となった。
- ・リーダーシップや役割分担が出来ていた。
- ・今後も「学習の成果発表の場とする」という方向性を引き継ぎ、自主性に富んだ本学の学生らしい企画の構築と実施ができるよう支援していきたい。

2. 委員会開催状況

回	開催日	報告・議題
1	4月17日(木)	<p>【報告】</p> <p>① 学生委員会活動内容確認(学生委員会規定、学生委員会の目的目標)</p> <p>② 学生交流会について</p> <p>③ 学生会執行委員会、飛鷗祭実行委員</p> <p>④ 学長挨拶</p> <p>⑤ 謝恩会</p> <p>【審議事項】</p> <p>① 2014年度の活動方針・目標</p> <p>② 役割分担について</p> <p>③ 年間計画について</p> <p>④ 卒業アルバムについて</p>
2	6月11日(木)	<p>【報告】</p> <p>① 学長への挨拶</p> <p>② 飛鷗祭実行委員役員決定</p> <p>③ 学生総会、三者懇談会及び懇親会について</p> <p>【審議事項】</p> <p>① 飛鷗祭の進行状況</p> <p>② 記録：学生会用パソコン、カメラの購入について</p> <p>③ 卒業アルバムについて</p>

		④ 3短期大学（部）スポーツ大会について ⑤ 医療短大スポーツ大会の日程変更について
3	10月28日（火）	【審議事項】 ① 3短期大学（部）スポーツ大会の実施状況と来年度の課題 ② 医療短大のスポーツ大会について ③ 飛鷗祭の進捗状況と今後の指導（シンポジウムを中心に）
4	11月27日（木）	【議題】 ① 飛鷗祭の振り返り ② 飛鷗祭の今後の方向性 ③ 選挙の方向性 ④ その他（卒業記念アルバム、卒業記念品、謝恩会）
5	3月11日（火）	【報告】 ① 新年度役員の決定 ② 国家試験激励 ③ 謝恩会の進行状況 ④ 卒業アルバム作成 【審議事項】 ① 学生交流会について ② 年間の振り返りと今後の課題 ③ 年報について ④ その他

D 評価・改善

目標1について「学生会活動への自主的参加者が増加する」

1. 3年間という学生生活であり、3年目は実習となり、学生会の実質的な活動ができないため、毎年新執行委員長が戸惑うことが多かった。そのため、今年度は様々な行事に執行部の参加する行事には1年生も参加できるように学生が自主的に行っていた。次期委員長の不安が軽減され活動がスムーズに行えるため継続していく。
2. 執行部の役員だけに負担させるのではなく、オープンに提案を受け入れ皆が一丸となり仲間で助け合っていた。
3. 看護学生らしい学びとなった。

以上のことから目標は達成できたと考える。今後もこのような体制が継続できるよう支援していく。

目標2について「学生間・学年間の交流が図られる」

1. 学生会執行委員長を中心に幹部の連携がよく、本学だけのスポーツ大会も悪天候のため日程の変更はあったものの、多くの学生が参加した。また、様々な行事を通して学年を越えたつながりがもてていた。
2. 勝つことだけが目標ではなく、楽しむことと全員参加と連携や連帯を大切に行っていた。
3. 有言実行できる学生たちであった。

以上のことから目標以上のことを実施できていたと考える。

目標3について「飛鷗祭では学業と連動した企画立案できる」

1. 開学40周年を記念した企画ができるよう支援した。委員会として学生に企画の提案を学生に

- 行ったが、それを学生が鵜呑みにするのではなく、自分たちとして何ができるかをしっかり考えることができていた。その結果、多くの新しい企画や変更ができ、充実した飛鷗祭となった。
2. 大きな企画として大学側とのコラボレーションしたシンポジウム、パンフレットの変更、学習の成果発表の場とした教室企画、モザイクアート、明瞭で正確な会計、全体の進捗状況がわかる表示、終了後の反省を文章にして残すなど、学生の自主性を生かした学園祭となった。
 3. 学生自身を変えたいという事は積極的に実行に移していた。(開催式時の椅子の使用、建学祭への式典への参加、採火式への参加等。)
 4. リーダーシップや役割分担が出来ていた。
 5. 飛鷗祭での発表を日々の学びとの連携という目的意識も高まったのではないかと。
 6. 教職員からも今までと違う、看護学生としての考えた飛鷗祭になっていたという意見があった。
 7. 今後も「学習の成果発表の場とする」という方向性を引き継ぎ、自主性に富んだ本学の学生らしい企画の構築と実施ができるよう支援していきたい。
 8. 片付けの際に負傷者が出てしまったことは残念である。今後は安全への配慮を注意喚起していく。
 9. 建学祭への参加が少ないと思われるため、建学祭へも参加できるよう指導していく。

その他

1. 本年度は学生会の記録が残るように記録係を置くことを提案したが、係の設置はなかったが、記録媒体として、パソコンやカメラを購入し活用した。
2. 各委員の仕事内容を確認し明確化し、組織の編成も促したが、実施にまでは至っていないため、来年度の課題とする。
3. リンクが音楽活動のサークルとして変更し、参加者も増え、精華園での活動を年2回実施した。今後も支援を継続する。
4. 様々な活動が着実に実行できた要因として、執行委員長のリーダーとしての能力が高いことが挙げられるが、それとともに、幹部や飛鷗祭役員とも非常に連携がよく取れていたことが挙げられる。ただし、両委員長とも報告を促さないと遅れる傾向にあったため、今後は報告に関する指導を行っていく。

(4) 現代文明論委員会

A 位置づけ

本委員会は、現代文明論委員会の規程にもとづき、講義の編成、運営を行う。

B 活動目標

1. 現代文明論を学ぶ動機づけをするとともに、学生の学習環境を整える。
2. 各回の講師と連絡・調整を行うことで、円滑な授業運営が行える。
3. 講義で紹介された図書を中心とした蔵書を増やし、学生の自己学習の環境を整える。
4. 委員会の活動を通して、現代文明論について教職員に広く関心を持ってもらう。

C 活動概要

1. 活動概要

現代文明論を学ぶ動機づけとして、ガイダンスで現代文明論を学ぶ意味・姿勢、学習の到達目標などを説明した。各回の講義では、講師から現代文明論を学ぶ意味や講義と現代文明論との関連を説明して頂いた。

授業運営は、昨年の方法を踏襲して実施した。各回の講師と事前および当日に打合せを行い、授業の準備・運営を行った。毎回、2名の委員が授業運営を行い学生の出席状況、授業態度や受講用紙の提出状況等を所定の用紙に記録した。委員会では、学生の授業態度や出席状況等について検討を行い、必要時委員長が全体または個別に指導を行った。受講用紙の書き方や課題レポートの書き方について、随時委員長が全体にむけて説明した。

講義の中で紹介された本をリクエストして、入荷したものは学生へ掲示で知らせ自己学習に活用できる様にした。

教職員に向けて講義予定が分かるように掲示を行い、講義変更はタイムリーに公開して講義に参加しやすい環境を整えた。

2. 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月2日(火)	① 諸規定及び運営方法について ② 年間スケジュール ③ 現代文明論Ⅰのガイダンスについて
2	5月7日(火)	① 委員会目標および活動計画について ② 現代文明論Ⅰの現状について ③ 第15回(まとめ)のグループワークについて ④ 課題レポート採点基準について
3	8月5日(火)	① 現代文明論Ⅰの成績について ② 現代文明論Ⅰ現状とまとめ ③ 現代文明論Ⅱのガイダンスについて
4	9月2日(火)	① 現代文明論Ⅰまとめ ② 現代文明論Ⅱのガイダンスについて
5	12月24日(水)	① 第1回 東海大学現代文明論研究センター運営委員会報告 ② 現代文明論Ⅱの現状について ③ 2015年度の講師について ④ 2015年度のシラバスについて
6	2015年 2月4日(水)	① 現代文明論Ⅱの成績について ② 現代文明論Ⅱのまとめ ③ 課題レポートの採点基準について
7	2015年 3月4日(水)	① 現代文明論Ⅱ授業評価について ② 年報について ③ 運営マニュアル等の見直し

D 評価・改善

授業運営は、各回の講師と事前および当日に打合せを行うことで滞りなく行うことができた。欠席や受講用紙の未提出が続いた学生には個別指導を行うことで、改善がみられた。講義日程が変更され5時限目に開講される場合には、予め講義の内容や学ぶ意味を説明することで欠席者が前年度より減少した。後期になると欠席者が増えて飛鳥祭前後に多い傾向のため、次年度も全体に向けて留意するよう伝えていく。

受講用紙の記載内容は、適宜全体に向けて指導を行うことで徐々に改善された。課題レポートは、学生が自ら問いを立てて記述する傾向が強化された。こうしたことは、これまでの指導が関係しているものと推察される。学生に、講義を受けて終了ではなく、自ら関心をもったテーマに

ついて継続して考える事、様々な視点から物事を考える大切さを、今後もガイダンス等を通じて説明していく。

講義の中で紹介された本を、課題レポートで参照した学生もみられた。次年度も学生の自己学習環境を整えることを目的に、講義関連の蔵書を増やすことを検討したい。

(5) 国際交流委員会

A 位置づけ

本学主催のデンマーク看護研修に対する支援を中心に、東海大学主催の海外研修航海及びハワイ語学研修、その他国際交流に関する支援を行う。また、デンマーク研修団の受け入れ（以下、デンマークスタディーツアーと称す）の企画、支援を行う。

B 活動目標

1. デンマーク看護研修を国際交流委員会との連携で実施できる。
2. デンマークスタディーツアーに関して、国際交流委員会を中心に全学体制で取り組むことができる。
3. 海外研修航海、ハワイ語学研修について幅広く広報する。

C 活動概要

1. 活動概要

① デンマーク看護研修

2014 年度第 40 回デンマーク看護研修では、VIA 主催でシルケボー校において、40 周年記念式典を開催していただき、本学からの研修団とヨーロッパ学術センター（以下、TUEC とする）の所長や職員も招待された。この式典を通じて、建学の精神とデンマーク看護研修の意義が再確認できた。日本学生支援機構「留学生交流支援制度（短期派遣）プログラム」に採択され、学生 16 名（1 年生 12 名、2 年生 4 名）が受給した。事前学習の英会話学習の講師を湘南校舎の外国語センターに依頼し、60 分間実施した。外国人に接した経験がない学生も多く、好評であった。

評価基準についてこれまでは、各年度の団長が決めていたが国際交流委員会で統一したものを使用することにし、評価基準と評価表を作成した。また、研修報告書を冊子体で作成していたが、時代に即してホームページにアップしデンマークからもアクセスできるよう変更した。一部保存用の冊子は残すことにした。

② 海外研修航海、ハワイ語学研修等

海外研修航海の募集に関して、昨年度参加した蔵本文乃講師に 9 月のガイダンスの時に写真を交えた宣伝を依頼した。その結果、今年度は 4 名（1 年生 1 名、2 年生 3 名）が参加した。

また、教養学部国際学科の旦祐介教授より、カンボジア研修参加の誘いがあり 4 名（1 年生 1 名、2 年生 3 名）が参加した。その他国際課よりフライディナイトやロシアフォーラムについて紹介していただき、広報した。

2. 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4 月 10 日（木）	① 2014 年度活動目標 ② 2014 年度活動内容、日程 ③ 第 40 回デンマーク看護研修

2	6月11日(水)	① デンマーク看護研修の単位認定基準 ② 〃 報告書
3	7月28日(月)	① デンマーク看護研修の単位認定基準 ② 〃 報告書 ③ 後期ガイダンスの国際交流委員会からの説明
4	9月5日(金)	① デンマーク看護研修評価表及び評価の手引き ② 〃 報告書 ③ デンマーク研修団の受け入れについて ④ イエンセン先生の退職式への出席
5	11月7日(金)	① デンマーク看護研修アンケート結果及び研修報告 ③ デンマーク研修団受け入れについて
6	12月17日(水)	① デンマーク研修団受け入れについて ・役割 ・日程 ・付属病院の見学 ・看護技術の紹介 ・学生への協力依頼
7	2015年 1月16日(金)	① デンマーク研修団受け入れについて ② デンマーク看護研修のホームページアップについて ③ 第41回デンマーク看護研修の日程短縮について ④ 海外研修航海、カンボジア研修の参加者
8	2月13日(金)	① デンマーク研修団受け入れについて ② 第41回デンマーク看護研修の日程短縮について
9	3月12日(金)	① デンマーク研修団受け入れについて ② 年間のまとめ(中間)

D 評価・改善

今年度より、国際交流委員会のメンバーを4名とし組織的に活動した。その結果、委員会での意見交換をとおして、評価基準や報告書について決定することができた。当該年度の団長や副団長の負担が軽減でき、国際交流委員会が後方で支援し、全学体制でデンマーク看護研修を行っていけるよう今後もマニュアル作成等を検討していく必要がある。

海外研修航海やカンボジア研修に多くの学生が参加したので、参加した学生の体験談などを広報できる機会をもって、引き続き多くの学生が参加できるような工夫をしていく。

《デンマークスタディーツアー》

1. 活動概要

今年度は、2年毎にデンマーク研修団が来日する当該年度であった。受け入れリーダーを中心に国際交流委員会の下部組織として打ち合わせを6回開催して、全学体制で研修団を受け入れた(デンマークスタディーツアーの日程は「国際交流」の項参照)。

2. 開催状況

回	開催日	議 題
1	11月28日(金)	① デンマーク研修団のスケジュールについて ② 役割分担

2	1月9日(金)	① デンマーク研修団の研修スケジュールについて ② この研修の名称について ③ ボランティア学生の募集について ④ 日程表の作成 ⑤ 歓迎会について ⑥ 国際課との調整について ⑦ 公文書について
3	1月29日(木)	① 公文書の作成 ② 付属病院での歓迎会について ③ 技術演習について
4	2月27日(金)	① 担当変更について ② 国際部国際課との打ち合わせ ③ 技術演習について ④ 付属病院見学について ⑤ 成田からの移動、成田への移動について ⑥ 学生歓迎会について ⑦ 日案の作成について ⑧ 英文のスケジュール表の作成について
5	3月12日(木)	① 付属病院での歓迎会について ② 技術演習について ③ 付属病院見学について ④ 国際課との打ち合わせ ⑤ アンケートについて
6	3月19日(木)	国際課職員との最終打ち合わせ ① 全日程の確認 ② デンマーク ベルギッテ先生との連絡 ③ 関連施設への最終連絡 ④ 各係との打ち合わせ

3. 評価・改善

2015 年度の国際交流委員会で、デンマーク研修団受け入れのマニュアル作成を行いながら、デンマークの方々にとって充実した研修となるよう評価・改善していく。

(6) 国家試験対策委員会

A 位置づけ

本委員会は学長の諮問機関であり、3年生の指導教員と2年生の指導教員代表で構成し、学生国家試験対策委員、事務室の看護師国家試験担当および図書館等と連携・協働しながら、看護師国家試験に全員が合格することを目指し、学生への支援を計画立案・実施する。

B 活動目標

1. 看護師国家試験の全員合格をめざし、国試対策と学習の支援を行う。

- ① 本学教職員、学生の国家試験対策委員と連携し、学生各自が計画的に国家試験対策に取り組めるよう支援する。
- ② 学生一人ひとりが、主体的に看護師国家試験の学習に取り組むことができるよう支援する。

- ③ 学生が、自己の学習状況や結果を把握したうえで、さらに学習が進められるよう支援する。
 - ④ 学生の力が最大限発揮できるよう、精神面への支援を行う。
2. 2年生の指導教員を中心として行われる、2年生国家試験対策の取り組みを支援する。

C 活動概要

1. 活動概要

第104回看護師国家試験受験対象者の全員合格をめざし、学生の国家試験対策委員と連携し、国試対策と学習の支援を行った。

① 国家試験への学習の動機づけ

前期と後期の指導教員ガイダンスにおいて、学習を計画的に進めることや模試の結果と傾向を伝えた。業者によるガイダンスを2回設け、4月には国家試験の分析からの傾向と対策について、12月には問題文の読み込みと年末から直前に向けての心構えと対策についての講義を行った。また、前年度卒業生による国家試験の取り組み経験の話聞く機会を設けた。これらの機会を通して、学生の学習への動機づけを高めた。

② 模擬試験の実施と過去問題を活用した学習

年度初めに、教員と学生委員で業者模擬試験を3回（7月、12月、1月）実施することを計画し、予定通り3回実施した。それに加えて、冬期の補講の学習成果を評価したいという思いから、学生らが自ら2月上旬に模擬試験を受ける行動が見られた。

模擬試験の結果返送までに時間を要することから、試験毎に終了後に自己採点を実施した。この結果から現状を知ることで学習への意識を高め、振り返り学習の動機づけとした。

第103回看護師国家試験問題の試験を4月に実施した。この第103回を含む過去5年間（第99回から）の看護師国家試験問題を学生に配布し、グループや個人学習で解答しその結果を提出してもらった。

③ 補講講義の実施

夏季補講は、8月に人体の構造と機能の講義を計画した。学生の苦手とする、呼吸器・循環器・消化器・内分泌についての講義を8コマ実施した。冬季補講は、1月に専門基礎分野・専門分野・統合分野の講義を計画し40コマ実施した。

④ 学生の計画的な学習活動と指導教員の指導体制

学生は5月から12月までの実習期間は実習グループ毎の学習を中心とした。グループでスケジュールを作成し、実習空き時間の有効活用、過去問題への取り組みを行うよう指導した。実習グループ毎に担当教員（指導教員4名が担う）を配置し相談窓口となり活動の支援を行った。

指導教員による全学生の面談を4～5月と1月に実施し、学習計画、学習内容や方法を指導した。また、模擬試験などの結果を踏まえ、特別に支援を要する学生に対し強化を図った。

⑤ 既卒者への対応

事務室を通して補講や模擬試験の日程等の情報を提供した。

⑥ 2年生の活動

9月に低学年向け模擬試験を実施した。2月の定期試験終了後に、春休みの国試対策についてのガイダンスと学習への意識付けを行った。

2. 委員会開催状況

① 3年生

回	開催日	議 題
1	4月8日（火）	① 2014年度活動方針・活動計画、役割分担 ② 第103回看護師国家試験の実施（4月26日）

2	4月26日(土)	① 活動目的 ② 2014年度活動目標 ③ 第1回看護師国家試験ガイダンスの実施評価 ④ 国家試験対策図書購入について ⑥ 過去5年間(第99回～第103回)の看護師国家試験問題の活用 ⑦ 業者模試の実施計画 ⑧ 夏季休暇中の補講
3	7月28日(月)	① 夏季・冬季の補講計画及び夏期の補講内容と講師 ② グループ学習活動の支援 ③ 夏期休暇の学習への取り組み
4	9月3日(水)	① 夏季補講の実施評価 ② 第1回目模擬試験の結果・傾向 ③ グループ学習活動の経過 ② 冬季の補講計画と講師依頼
5	12月4日(木)	① 第2回目模擬(必修)試験の実施 ② 第2回看護師国家試験ガイダンスの実施 ③ 冬季の補講計画 ④ グループ学習活動の経過 ⑤ 強化支援を要する学生との面接(12月)
6	12月22日(月)	① 第2回看護師国家試験ガイダンスの実施評価 ② グループ学習活動の経過と今後の学習方法 ③ 冬季の補講と学生委員の役割 ④ 学生全員への指導教員面接(1月) ⑤ 受験票配布日、国試終了後の確認事項
7	1月19日(月)	① 冬季補講終了後、強化支援を要する学生への2月の学習支援 ② 2月9日の登校日の実施内容
8	2月5日(木)	① 冬季補講の実施評価 ② 学生面接の実施報告 ③ 補講終了後の学生の自主的な模擬試験の実施報告 ④ 2月9日の登校日の実施内容 ⑤ 第104回看護師国家試験受験票配付日の指導教員の実施内容 a 受験前日・当日の注意事項の確認 b 国試対策のアンケート内容の確認 c 自己採点と報告の方法 ⑥ 2年生の国試対策報告
9	2月18日(水)	① 受験前日・当日の注意事項と国試対策アンケート内容の最終確認 ② 配付物の準備
10	2月24日(火)	① 冬季補講の実施評価 ② 各係における国家試験対策活動の振り返り ③ 次年度への引き継ぎ事項
11	3月17日(火)	① 第104回看護師国家試験自己採点の結果 ② 国家試験対策委員会の活動評価

② 2 年生

回	開催日	議 題
1	4 月 9 日 (水)	① メンバー・リーダー ② 取り組みを検討するに当たっての情報収集について
2	5 月 26 日 (月)	① 各係の決定 ② 秋の模擬試験の実施と役割
3	12 月 3 日 (火)	① 学習方法について ② アンケートの実施 ③ 模擬試験の復習の状況確認

D 評価・改善

3 年生の国家試験対策については、学生の国家試験対策委員と連携し、国試対策と学習の支援を行った。学生の委員会メンバーも、自己の役割を認識し学生全体へ積極的に働きかけるという行動ができていた。お互いの連携のもと模試や補講等も順調に進行することができた。

国家試験対策に関するアンケートの結果から、12 月の国試対策ガイダンスや先輩からの話は、学習への取り組みを具体的に知ることができ学習への動機づけとなっていた。また指導教員の面接は、勉強方法の確認、学習計画の立案へのアドバイスにより学習への意識が高まったとともに、精神的な支援にも繋がっていた。特に、冬季（1 月）の補講に対する学習への意識は高く、補講後はグループや個人でその日の学習の振り返りを行っていたり、全補講終了後には学習成果を確認するために学生自らが模擬試験を設定し臨む姿勢も見られていた。

4 月にもガイダンス等で意識づけをしているが、学生の傾向として、学習の必要性を自覚し本格的に取り組む始めるのは全臨地実習終了後の 12 月下旬ないし 1 月からであった。早期から計画的・主体的に学習していくための動機づけと、臨地実習と平行しながら学習することを支援していくことが今後の課題となる。

(7) ハラスメント防止人権委員会

A 位置づけ

本委員会はハラスメントの防止及び被害者救済に関し必要な事項を定め、本学の学生及び教職員等の修学若しくは就労又は教育、研究における環境の健全化を図り維持することを目的としている。

B 活動概要

1. 活動概要

① ハラスメント防止人権委員会規定、ハラスメント調査委員会規定、ハラスメント相談窓口に関する規則の改定を検討した。

② ハラスメントに関する苦情相談、救済と対応のため相談窓口を例年通り設置した。2014 年度の相談委員名については、キャンパスナビに記し、学生ガイダンスで伝えている。学生ガイダンスの際に、「ハラスメントの加害者にならないために」について、また「被害にあった場合の対応や相談窓口」について説明した。

2014 年度全体を通して、学生および職員からの相談はなかった。

2. 委員会開催状況

定例委員会は、開催しなかった。

(8) FD 委員会

A 位置づけ

FD 委員会の規定に基づき以下の役割を行う。

1. 教育活動支援
2. 研究活動支援
3. その他、教員の関わる活動に関する支援

B 活動目標

1. FD の 3 か年計画を立案する
2. 教育技法の向上を図る
3. FD/SD マップの作成方法を検討する

C 活動概要

1. 活動概要

① 3 か年計画の立案

2013 年度の委員会での検討内容を研究・教育活動報告会に提案して、意見交換を行い、2014 年度～2016 年度の 3 か年計画を作成した。

② 教育技能の向上について

8 月 2 日に立命館大学の安岡高志先生に『論理的思考力を養う授業づくりと授業評価』というテーマで講演会を開催し、参加者は 19 名であった。

9 月 5 日には 2013 年度のティーチングオブザイヤーの千葉美果講師の授業実践報告と大学教育研究フォーラム参加報告（中田委員長）、『まんが FD ハンドブック おしえて！FD マン』1-3 巻の紹介（萱嶋委員）、東海大学 FD 研修会報告（後藤委員）を行い、参加者は 21 名であった。

3 月 3 日には教育研究活動報告会を実施した。参加者は、20 名のうち 1 名は本学教員との共同研究者の医学部付属病院の看護師であった。

内容：研究発表 1 高本 征子 助教

「ホームホスピス看護師による療養者への安らぎをもたらす看護」

研究発表 2 中田 芳子 教授

「臨地実習指導者と病棟スタッフ看護師との連携～インターネット調査を実施して～」

授業実践報告 1 千葉 美果 講師

「アクティブラーニングを取り入れた授業の取り組み」

授業実践報告 2 木村 節子 講師

「病気の子どもの遊びと看護」

研修報告 萱嶋 美子 講師

「パフォーマンス課題とルーブリックを活用した授業・演習・実習” 研修に参加して」

その後、FD マップ案を FD 委員長から提案して、意見交換を行った。

その他として、神奈川県保健福祉大学看護実践教育センターの教員継続研修に高本征子助教と樋口貴子助教の 2 名が参加した。また、同センターからの教員養成課程の実習生を 2 名受け入れ、望月好子教授と阿部ケエ子講師が指導を担当した。その際、関係する領域の教員も模擬授業等に参加し、授業作りについて考える機会とした。

③ FD マップについて

1 年間をとおして委員会において FD マップについて検討し、3 月の教育研究報告会に提案

2. FD 委員会 2014 年度～2016 年度 3 ヶ年計画 (2014. 4. 28)

目標 ① 教員の教育実践能力を高めるための支援を行う

② FD/SD マップの作成

③ 総合看護研究施設の活動と連携しながら、教員の研究の質の向上を支援する

年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
活動分野			
教育活動支援	「授業の作り方」 建学の精神と教育目標に沿った授業案の作成 シラバスの意義について 授業案の作成方法 授業評価のありかた	「看護過程の指導」 基礎、成人、老年、精神、母性、小児、在宅の看護過程の指導方法の共有	「実習指導」 基礎、成人、老年、精神、母性、小児、在宅、統合各看護学実習の実習目標と指導方法の共有
	8 月 授業実践報告 (ティーチングオブザイヤーの受賞者を中心に)	8 月 授業実践報告 (ティーチングオブザイヤーの受賞者を中心に)	8 月 授業実践報告 (ティーチングオブザイヤーの受賞者を中心に)
	3 月 教育・研究活動報告	3 月 教育・研究活動報告	3 月 教育・研究活動報告
	講演会等 授業案の作成等	講演会等 アクティブラーニング	講演会等 ポートフォーリオ
研究活動支援	講演会 質的研究	講演会 量的研究	講演会 質的研究
その他	FD マップの検討 教員の研修会参加	FD マップの作成 教員の研修会参加	FD/SD マップの作成 教員の研修会参加

D 評価・改善

3 年計画の初めの年度であり、教育実践能力に重点をおいて活動した 1 年間であった。そのため、研究に関する講演会と併せて、夏に授業に関する講演会を開催した。また、3 月の報告会にも授業内容の実践報告も行い、ティーチング・オブ・ザ・イヤーの教員の授業実践報告会と共に教員の授業づくりに関する参考となったと考える。FD マップに関する検討と教員の意見交換を行ったので、次年度作成を目指したい。また、次年度からは FD・SD 委員会として新たに活動課題も増えるので、常に PDCA サイクルを意識して委員会活動をしていく必要がある。

(9) 倫理委員会

A 位置づけ・役割

人を対象とする研究活動においては、研究者はいかなる研究対象者に対しても、人として尊重

され、その人権が擁護されることに責任をもち、さらに、他者および自己の知的財産権を保護することにも責任をもつ義務がある。本委員会は、これらの責任および義務を遂行するために、東海大学医療技術短期大学研究倫理指針の基本原則を示し、種々の研究活動における倫理的側面に対して、これを審査することを目的とした委員会である。

B 活動目標

倫理審査申請数の増加をめざし、FD 委員会・総合看護研究施設と協同し、教員の研究活動の活発化を間接的に支援していく。

1. 倫理研修は倫理委員会メンバーだけでなく、FD 委員会や総合看護研究施設と協力しながら、全教員を対象とした研修会を企画することが望ましい。今年度は、総合看護研究施設の「研究をともに学ぶ会」とコラボするかたちで、進めていく。
2. 新たなガイドライン等の作成は行わず、従来通り「倫理審査申請の手引き」を活用していく。

C 活動概要

1. 活動概要

本年度の倫理審査申請は延 5 件（学内 4 件・・・初回審査 3 件、再審査 1 件）、（学外 1 件・・・研究協力依頼 1 件）であった。結果のうちわけは、「初回審査での可（付帯事項有）1 件」、「再審査での可（付帯事項有）1 件」であった。いずれも修正報告がなされ、「研究実施許可書」を出した。その他、再審査申請しなかったもの 1 件、研究協力不可 1 件であった。ほかに委員長判断で許可したものが 1 件あった。

教員からの依頼を受け自主作成の授業教材の動画を Web 上にアップロードすることについて審議・承認したが、次回以降はカリキュラム委員会に依頼することとなった。

2. 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4 月 9 日（水）	① 2014 年度委員会の活動目標検討 ② 2014 年度委員会開催日について ③ その他
2	6 月 4 日（水）	① 倫理審査 初回審査 1 件 ② その他
3	7 月 2 日（水）	① 倫理審査 再審査 1 件
4	8 月 6 日（水）	① 自主作成動画の Web 上へのアップロードの取り扱いについて
5	11 月 5 日（水）	① 倫理審査 初回審査 2 件 ② 外部からの研究協力依頼について 1 件
6	3 月 4 日（水）	① 2014 年度総括

D 評価・改善

1. 倫理研修は計画通り総合看護研究施設と協力して実施できた。次年度以降も年 1 回開催する。その際、付属病院の臨床研究倫理審査に関する説明も加える。時期は年度初めが望ましい。
2. 現行の手引きで特に問題はなかったので次年度以降も継続して活用する。

(10) 研究活動の不正防止対策委員会

A 位置づけ

本委員会は、本学における研究活動に係わる不正防止と研究費及び競争的資金等の運営・管理を適正に行うために、設置され、次の役割を担っている。

1. 学内での研究活動の不正防止に関する啓発
2. 学内での研究活動の不正防止対策に関する検討及び実施
3. 学内での研究活動の不正に関する調査委員会の設置
4. 学内での研究活動に関する不正告発相談窓口の設置

B 活動概要

1. 活動概要

研究活動の不正事項がなかったため、特別な活動は行わなかった。

2. 委員会開催状況

定例委員会は、開催しなかった。

(11) 省エネルギー推進委員会

A 位置づけ

本委員会は、本学の省エネルギー対策を推進するための取組方針及び目標等を策定することを目的とする。

B 活動概要

1. 活動概要

省エネルギー・省資源対策、その他地球環境保全について、冷暖房の温度設定、ゴミの分別収集等学内において学生、教職員に対して掲示等で周知し、配慮を呼び掛けた。

2. 委員会開催状況

定例委員会は、開催しなかった。

(12) 大学評価委員会

A 位置づけ

本委員会は、本学における教育・研究及び組織・管理運営の質的向上を図るため、必要な事項の審議・点検・評価活動を行い、かつ教育研究年報（自己点検・評価報告書）の監修、発行に関する事項を審議し、学長に答申することを目的とする。

B 活動目標

1. PDCA サイクル体制の構築に向けたしくみを確立する。
2. 2014 年度以降の教育研究年報の内容・構成を決定する。
3. 卒業生に関する就職先アンケートの結果をまとめて検討し、教育評価を行う。

C 活動概要

1. 活動概要

自己点検・評価において見出された以下の課題について、引き続き改善を図った。

① PDCA サイクルに基づく自己点検・評価の組織作りと運営を行う。

学長から示された中期目標をもとに表現を修正するとともに、ミッションシェアリングシートを作成し、医療技術短期大学の使命と中期目標、実施事項をつなげて計画・実施・評価・改善を図れるような仕組みと方法について提案をした。

② 自己点検・評価の一環として位置づけた教育研究年報については、今年度は計画・実施・評価・改善の項目立てで記載するよう記載方法の変更を行った。

③ 学習成果の評価を目的として実施した卒業生の就職先での調査の分析とまとめを行い、2013 年度教育研究年報に掲載した。

その他の課題、入学試験選抜方法、学生による授業評価アンケート回収率の改善、SD・FD 合同研修会、避難訓練マニュアルの作成、校舎の耐震工事、経営上の問題等は、それぞれ該当する部門で検討中である。

2. 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4 月 9 日 (水)	① 卒業生の就職先調査について ② 今年度の活動目標・活動計画について ③ PDCA サイクル体制の構築に向けて ④ その他
2	5 月 14 日 (水)	① 各機関・委員会の活動目標・計画と教育理念・方針、3つの方針との関係、および本学の中・長期目標との関係について ② 第三者評価の認証公開の範囲と方法について ③ その他
3	6 月 11 日 (水)	① ホームページ上の第三者評価の認証公開の文案について ② 卒業生の就職先での実態調査アンケートの集計・分析について
4	7 月 9 日 (水)	① 本学における中期目標の策定にあたって ② 大学ポートレート作成について
5	8 月 6 日 (水) 9 月 1 日 (月) (ワーキング 会議)	① 看護単位責任者用アンケート結果について 中期目標・MS シートワーキンググループ会議 ① 中期目標の見直しおよびミッションシェアリングシートについて
6	9 月 10 日 (水)	① 卒業生の就職先での実態調査について ② 中期目標およびミッションシェアリングシートについて
7	10 月 8 日 (水)	① 2014 年度活動計画の追加・修正について ② 卒業生の就職先での実態調査についての原稿の最終確認
8	11 月 12 日 (水)	① 卒業生の就職先での調査について ② ミッションシェアリングシートについて
9	12 月 10 日 (水)	① ミッションシェアリングシートについて ② 組織図の改定案について
10	2015 年 1 月 13 日 (水)	① ミッションシェアリングシートについて ② 教育研究年報について ③ その他

11	2月3日(火)	① ミッションシェアリングシートについて ② ミッションシェアリングシート購入への説明について ③ 教育研究年報について
12	3月2日(月)	① ミッションシェアリングシート導入の説明について ② 中期目標について ③ ミッションシェアリングシートについて

D 評価・改善

- ① PDCA サイクルに基づく自己点検・評価の組織作りと運営については、計画に基づき中期目標とミッションシェアリングシートについて提案を行った。次年度は機関・委員会ごとに内容を検討し、できるところから2015年度の活動目標・計画・実施に生かすとともに、3か年計画を立てる。
- ② 教育研究年報についての今年度の変更は部分的なものである。PDCA に対してより効果的なものとなるよう構成を含めて内容及び記載方法について検討し改善を図る。
- ③ 卒業生の就職先への調査結果を分析し、まとめを行うことにより学生の状況のある程度把握できた。今後も継続するとともに、前回評価から3年を経過するので全体的なカリキュラム評価について検討を行う。

(13) 教育研究年報編集委員会

A 位置づけ

第三者評価機関による外部評価が義務付けられたことを受け、教育研究年報は自己点検・評価の一環として位置づけ、今年度からは、大学評価委員会の下部組織として位置づけられた。

B 活動目標

1. 教育研究年報の趣旨に基づき、その構成、記載方法に関する基準を作成し、適宜改訂する。
2. 提出された原稿が基準に沿って適切に記述されているかを査読する。

C 活動概要

開催日	議 題
6月	第1回目、原稿の回覧、査読
7月～9月	「卒業生の就職先での実態調査」結果の掲載について検討
10月	第2回目、原稿の回覧、査読
12月	ホームページに掲載
2015年2月	2014年度原稿依頼

D 評価・改善

次年度は、大学評価委員会で自己点検・評価の一環として位置づけた教育研究年報の内容について検討し、内容を刷新していく予定である。

(14) 図書館運営委員会

A 位置づけ

本委員会は、東海大学医療技術短期大学図書館規程第4条に基づき設置された委員会で、次の

事項について審議する役割を担う。委員会決定事項は、必要に応じて企画調整会議に図り、教授会で審議・報告される。

1. 図書館の企画並びに運営に関すること。
2. 図書館の予算の編成並びに実施に関すること。
3. 図書館に関する諸規程の制定及び改廃に関すること。
4. その他図書館運営上の重要事項に関すること。

B 活動目標

2014 年度図書館運営基本方針

1. 学生及び教職員また学外からの来館者の「知る自由」を保障し、学習を支援する。
2. 本学の図書館規定に基づき、図書館運営に関する施設設備の充実に努める。
3. 利用者の課題を解決するための情報提供を行い、図書館利用の促進を図る。
4. 図書館システム iLiswave-J による運用を円滑に行うために、蔵書データの入力を計画的に進める。

C 活動概要

1. 活動概要

委員会活動は、2014 年 6 月、9 月、2015 年 3 月に開催し、各議題について審議した結果を図書館業務に反映させた。

2. 委員会開催状況

回	開催日	議題
1	6 月 11 日 (水)	① 2014 年度図書館運営委員会基本方針について ② 2013 年度決算および業務報告について ③ 2014 年度予算および業務計画について ④ 2014 年度図書館開館スケジュールについて ⑤ 図書館システム iLiswave-J 導入後の状況と今年度の進行予定について ⑥ J 館資料のカビ対策について ⑦ 視聴覚資料のメディア変換の進め方について ⑧ その他
2	9 月 5 日 (金)	① 第 1 回図書館運営委員会議事録の確認について ② 2015 年度予算について ③ 図書購入希望の取り扱いについて ④ 視聴覚資料のメディア変換について ⑤ 2014 年 12 月 26 日 (金) の予定について ⑥ その他
3	2015 年 3 月 5 日 (木)	① 第 2 回運営委員会議事録の確認について ② 視聴覚ビデオ資料のメディア変換について ③ 図書購入希望の取り扱いについて ④ iLiswave-J 遡及データ入力作業の進捗状況について ⑤ 2014 年度図書館活動報告 (2015 年 2 月現在) ⑥ 2015 年度図書館開館スケジュールについて ⑦ その他

D 評価・改善

1. 評価

委員会で各議題について審議した結果を図書館業務に反映させたことで、次のような学生・教員の学習・教育支援に繋がった。

- ・通常開館について。図書館開館スケジュールで、学生の実習期間に基づき通常開館（月～金 9：00～19：00、土 9：00～16：00）を実施した。
- ・蔵書点検について。例年図書館を閉館して実施していたが、図書館を開館しながらの点検を実現し、学生・教員の図書館利用を妨げなかった。
- ・座席数について。K館閲覧室にテーブル・椅子を追加、座席数が34席から38席となった。
- ・視聴覚ビデオ資料のメディア変換について。ビデオが視聴不能になる前にDVD等へのメディア変換対策を取るため各領域長に協力を仰ぎ、多数の変換候補をリスト化し、変換用の機材も購入設置した。2015年度以降に購入およびメディア変換を予定しているが、資料の有効活用が期待できる。
- ・蔵書データについて。K館の蔵書のうち図書については2014年度前期に入力完了し、雑誌データも入力を進めており、蔵書検索が便利になっている。

2. 改善

委員会を3回開催したが、第1回開催が6月で既に新年度の図書館活動を開始しているため、委員会として活動目標確認が遅くなっていた。今後は第1回を4月に開催することを確認した。